

科学の力で命救つて

富士フィルムが人工多能性幹細胞(iPS細胞)を使った移植医療の承認を国から得るための臨床試験を2018年度中に申請する方針を明らかにした。実現すれば日本では企業として初めての例となる。

僕はこの記事を読んで感動した。iPS細胞について、最近理科の授業で学ん



だ。この技術を使えば、たくさんの難病を抱えた人たちを助けることができる。これは、人類にとって科学による大きな進歩であると思う。これによって、生きる希望を与える人もいるだろう。

この技術を使えば、お年

寄りの視覚・聴覚の機能低下を防止できるかもしれない。僕にも大好きな祖父母がいるので元気なままで長生きしてほしい。だから、

iPS細胞の技術を利用した治療が進められてほしい。科学の力で人を救うことは、科学を発展させていく上で最大の目的であると思う。いつの日か僕も人々の命のために科学の発展に貢献していきたい。

富士フィルムiPS治験

移植片対宿主病
企業初、本年度申請へ

富士フィルムは日本で人工多能性幹細胞(iPS細胞)による再生医療の開発に取り組んでいます。この技術は、患者の細胞を採取し、それをiPS細胞に分化させることで、様々な細胞を培養することができるものです。この技術を用いて、難病の治療や、組織の再生など、多くの医療分野で応用されています。富士フィルムは、この技術を用いて、移植片対宿主病の治療を目指す臨床研究を実施する予定です。この研究は、企業として初めての臨床研究となるため、大きな期待が寄せられています。

移植片対宿主病
企業初、本年度申請へ

まえだ げんき
前田 紘貴さん(陽明中3年)

マイトップニュース